# リコーロジスティクス（旧 リコーインターナショナルロジスティック）

## キーワードとしての「仮置場」の発見

### ユニフォーミティから ヴァライアティ、ヴァーサティリティへ

**もともとは5階建ての倉庫に必要なエレベーターの数を4つから3つに減らすため調査が始められた。倉庫のなかで、荷物をどのように移動させれば作業能率を下げることなく設備を削減することができるのか。**

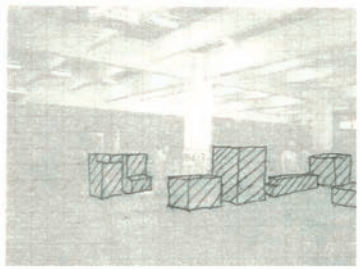
荷物は一日中入れ替わり、運び入れられては運び出されていく。また、ストックされている期間は7日から3か月と、それぞれ製品によって異なる。

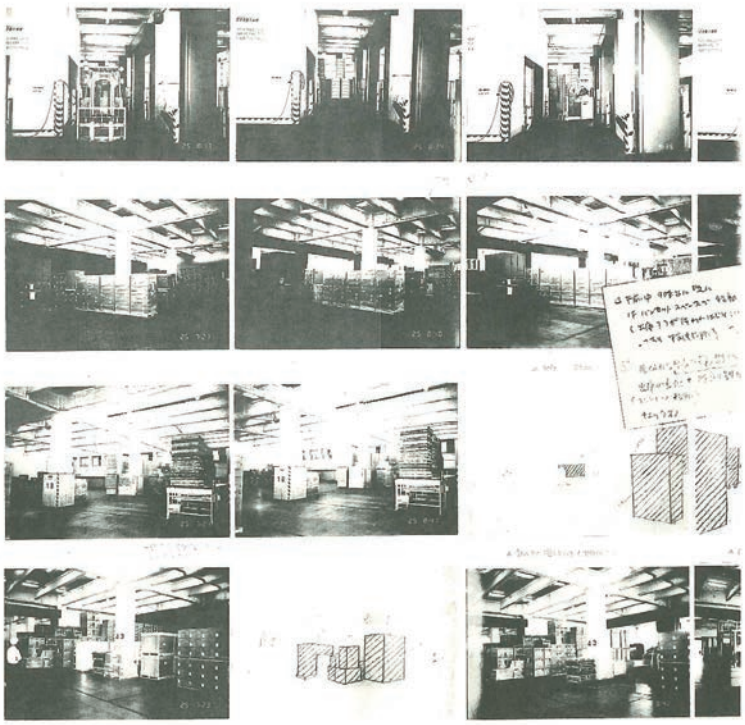
### 均質空間の否定と 無目的空間の重要性

ここでも現状を把握するために、チェックポイントをいくつか定め、写真を使った荷物の移動量についての定点観測を行った。そこで何が行われているのかを観察し、作業手順を含めた全体の大きなシステムを設備の面から考えること。現在のシステムより少ない設備でより高い効果をあげる方法を探し出すことは可能であり、それは同時により**環境への負荷をかけない**（設備を増やすのではない）方法の中にあるはずだ。

調査をすすめるうちに、搬入後の荷物はすぐには所定の場所に運ばれることはないということがわかる。荷物は一時的に廊下など空いている場所に置かれ、その後、所定の場所へ納められる。計画は、この一時的なスペース「仮置場」をうまくシステムの中に組み入れることによって能率をあげることができるという考えのもとに進められ、驚くほどよい結果を得ることができた。**よいシステムをデザインすることによって、設備を増やすのと同等以上の効率をあげることが可能なのである。**

荷物の移動を2分ごとに撮影。





また、よいシステムをデザインすることは、初期設備投資を減らすことができるだけでなく、**ランニングコストに大きな影響**を持たらす。

生産性を持たない空間を意図して持たせることによって、作業をより滑らかにすることができたという事実には多くの意味が含まれている。

「無駄」を「遊び」、「余裕」と読み替え、むしろそれを「どのようにも使うことのできるもの」と肯定していくこと。それはすでに創造的な作業である。特定の役割を与えられた空間は、ある意味で多様性、多機能性をもつ可能性を否定してしまっているとも言える。振り返ってみれば、「人工的なもの」とはそうした否定によって築き上げられてきたものの総称ではないだろうか。

引用：建築ジャーナル　2000-7